

製品取扱説明書

1. はじめに

Rogue車椅子をお買い上げいただきありがとうございます。

この説明書を読まずに車椅子を使わないでください。乗る前に、Assistive Technology Practitioner(ATP)または臨床専門家による、この椅子の安全な使用法についての訓練を受ける必要があります。

この車いす、この取扱説明書、または当社もしくは貴社の小売業者が提供するサービスについてご質問やご懸念がある場合は、以下の電話番号までご連絡ください。

Ki Mobility 日本総代理店 株式会社ユーキ・トレーディング 〒110-0008 東京都台東区池之端2-5-46-2F

Tel: 03-3821-7331 Fax: 03-3821-7552

Mail: info@yukitrading.com



Ⅱ. 目次

I.		はじめに	
II.	目次		
III.		ご使用前の注意点	
	A.	安全性と安定性	3
IV.	警告		
	A.	注意喚起の用語	4
	B.	一般的な警告	-
	C.	ポジショニングベルト	. 6
	D.	リジット車椅子	. 7
	E.	パワードライブ	. 8
	F.	階段を上る場合	. 8
	G.	階段を下る場合	. 8
	H.	移乗	. 9
	l.	車椅子と使用環境	. 9
	J.	車椅子の改造	.10
	K.	車椅子の安定性	.10
٧.	車いる	けのセットアップと使用	
	A.	Rogue と付属品	.13
	B.	車載について	.14
	C.	高さ調整式T型アームサポート	.17
	D.	スイングアウト式アームサポート	.18
	E.	アームサポート使用上の注意	.18
	F.	車軸位置調整	.19
	G.	キャンバー角	.21
	H.	ホイール幅調整	.21
	l.	トウ角の調整	.22
	J.	後座高の調整	.23
	K.	前座高の調整	.23
	L.	キャスター角の調整	.24
	M.	ホイールの取付け及び取外し	.25
	N.	フットサポートの調整	.26
	Ο.	角度調整式フットプレート	.26
	P.	転倒防止装置	.27
	Q.	シート及び背もたれの生地	.28
	R.	バックサポート	.29
	S.	ブレーキ	.31
	T.	クッションの使用	.32
VI.	メンラ	テナンス	
	A.	車椅子の点検	.33
	B.	クリーニング	.35
	C.	保管	.35
	/III 17 th		~~

Ⅲ. ご使用前の注意点

A. 安全性と安定性

Ki Mobilityは、お客様のニーズに合ったさまざまな車椅子を製造しています。ご利用者様それぞれのご要望に適したモデルの選択や、車椅子のセットアップや調整に関しては、医療従事者または車いす販売店に相談してください。車椅子の種類、オプション、調整の最終的な選択は、お客様と医療従事者のアドバイスに従って行ってください。選択したオプション、および車椅子の設定と調整は、車椅子の安定性に直接影響します。安全性と安定性に影響を与える要因は次のとおりです。

- a、筋力の強さ、バランス、運動の連動性などを含めたご利用者様の能力。
- b. 日中に遭遇する可能性のある危険や障害の種類。
- c, 特定の寸法、オプション、および設定。具体的にはシートの高さ、シート奥行、座面角度、背角度、後輪のサイズと位置、フロントキャスターのサイズと位置である。 これらのアイテムを変更すると、車椅子の安定性が変わります。変更には、資格のある専門家に相談してから行ってください。

A. 注意喚起の用語

このマニュアルでの「警告」について説明します。これらの警告は、様々な危険性を明確にし、その重大性をお伝えするために用いています。この車椅子を使用する前に、使用者本人そして介助者はこのマニュアルをお読みください。注意喚起の用語に注意し、警告、注意、危険を考慮してください。必ず指示に従って安全に使用してください。本取扱説明書に記載されている注意喚起の用語は、使用者または他の人に重傷または死亡に至らせる可能性のある危険及び危険な行為を指します。「警告」は、主に以下の三つに分類される。

DANGER –(危険)とは、切迫した危険な状態を指し、回避しなければ重大な人身事故につながる可能性を示します。

WARNING-(警告)は回避しないと重大な人身事故につながる危険な状況を示します。

CAUTION-(注意)は、回避しないと、けがや車椅子の損傷を引き起こす可能性のある、 危険な状況を示します。

これらの注意喚起の用語は危険な状況を強調するために、マニュアル全体に適切に示されてされます。この車椅子の一般的な使用に適用される危険な状況については、以下のリストを参照してください。

IV. 警告

B. 一般的な警告

A WARNING A

WARNING: Rogueの耐荷重124kg(座幅・座奥行50cmモデル158kg)を超えないようにしてください。これはユーザーと持ち物の合計重量です。耐荷重制限を超えると車椅子の破損や、転倒、転倒の可能性が高まり、使用者や他の人が重傷を負ったり死亡したりする可能性があります。

A DANGER A

DANGER: ウェイトトレーニングには使用しないでください。車椅子への重量装着等は車椅子の重心を変化させ、転倒の可能性を増加させ、それにより車椅子の破損や、使用者または他の人に重傷または死亡を引き起こす可能性がある。

A WARNING **A**

WARNING: エアータイヤの場合はタイヤ側面に表示されているタイヤの空気圧に準じた空気量が注入されているか確認してください。適切な空気量に達していない状態でご使用されますと、車椅子の安定性に影響が出て転倒し、使用者や他の人の怪我や死亡につながることがあります。

A DANGER A

DANGER: 車椅子を9度以上の坂の上下や横流れの斜面での走行は避けてください。これは 危険であり、転倒の可能性を高め、使用者や他の人に怪我や死亡につながることがあります。

A WARNING **A**

WARNING: 氷面、油、水で覆われた滑りやすい斜面で車椅子を走行させないでください。 不安定な状態になり使用者や他の人が死傷することがあります。

A DANGER A

DANGER: 車いすの横や後ろに手を伸ばして寄りかからないでください。転倒しけがや死亡の原因になります。

B. 一般的な警告

A WARNING A

DANGER: アームサポートやフットレストなどの取外し可能な部分で車いすを持ち上げないでください。本体フレームを握って車椅子持ち上げてください。転落、制御不能となり、重大な人身事故につながる恐れがあります。

A CAUTION A

CAUTION: フレームに各種部品を取り付けるボルトや金具を締めすぎないでください。 これは重大な損傷を引き起こし、車椅子の安全性と耐久性に影響を与える可能性がある。

C. ポジショニングベルト

ポジショニングベルトは、車椅子での適切なポジションを補助するように設計されています。 シートベルトとしては設計されていません。ポジショニングベルトは、ユーザーの姿勢をサポートする場合にのみ使用してください。

・車いすユーザーがポジショニングベルトの下を前方に滑り出さないように確認してください。この場合、使用者の呼吸が妨げられ、死亡や重傷を負うおそれがあります。 ・ポジショニングベルトはしっかりとフィットする必要があります。車いすユーザーのポジションはしっかり保たれるが、呼吸を制限するほどきつくない状態でセッティング。ポジショニングベルトとユーザーの間に手をスライドさせることができる状態が最適です。

- 下記の方法。場合でポジショニングベルトは絶対に使用しないでください。
- a, 抑制として。拘束には医師の指示が必要です。
- c, ポジショニングベルトは、シートベルトとして要求される基準に代わるものではありません。急停止時は停止の勢いで前方に投げ出されます。 車椅子のシートベルトはこれを防ぐことはできず、ベルトやストラップによってさらなる損傷が生じる場合があります。

A DANGER A

DANGER: 上記指示に従わない場合、重大な怪我やあ死亡事故につながる恐れがあります。

IV. 警告

D. リジット車椅子 (固定車)

車椅子はコンクリート、アスファルト、床材などの硬くフラットな面で使用するように設計されています。濡れた場所や滑りやすい場所で車椅子を使用される場合は注意してください。

A WARNING A

WARNING: 砂やゆるい土、でこぼこした場所で車椅子を使用しないでください。その結果安定性が失われ、制御不能に陥り、重大な怪我や死亡事故を引き起こす可能性があります。

A DANGER A

DANGER: 車椅子は歩行者に分類されるため車道での使用は合法ではありません。車道で使用される場合は自動車に十分注意してください。車道で車椅子を使用すると重大な怪我や死亡につながる事故を引き起こす可能性があります。

A WARNING **A**

WARNING:障害物や道路の危険(穴や舗装の破損など)は、車椅子に損傷を与え転倒や制御不能の原因となります。重大な怪我や死亡事故の原因となります。

A DANGER A

DANGER: エスカレーターでは車いすに乗らないでください。エスカレーターで車椅子を使用すると重大な重傷を負ったり死亡したりすることがあります。これらのリスクを最小限に抑えるには、次の手順に従ってください。

リスクの最小化するには:

- 1) 危険物に気をつけて、前方をよく見ながら走行してください。
- 2) 自分の住んでいる場所や仕事をしている場所の床は、平らで障害物がないことを確認してください
- 3) 部屋と部屋の間の敷居を除去または乗り越えられるようにカバーしてください。
- 4)出入口ドアにスロープを取り付けます。スロープの一番下に落下物がないことを確認します。
- 5) 重心を補正するには:
- a、障害物を乗り越えるときは、上体を少し前に傾けてください。
- b, 坂道を上から下る時は、上半身を後方に押しつけてください。
- 6) 椅子に転倒防止装置が付いている場合は、固定してから走行してください。
- 7) 隨害物を越えるときは両手をハンドリムに置いた状態で走行してください。
- 8) 車椅子を推進させるために、物(家具やドア枠など)を利用しないでください。
- 9) 車道や自動車専用道路、高速道路では車椅子を操作しないでください。
- 10)補助なしで障害物を越えようとしないでください。

E. パワードライブ

Ki Mobilityは、Rogueにパワードライブシステムを取り付けることを推奨していません。

Rogueは電動車椅子として設計または試験されておりません。Rogueにパワードライブシステムを追加する場合は、パワードライブシステムのメーカーがパワードライブシステムとRogueの組み合わせが安全かつ有効であることを検証し承認していることを確認してください。

A WARNING A

WARNING: 適切に検証されていないパワードライブシステムを使用すると、重大な怪我や死亡事故につながる可能性があります。

F. 階段を上る場合

- 車椅子に乗ったまま階段を上る場合は、車椅子と利用者の体重を支えられる体力と技能を持った人に介助してもらってください。
- 車椅子と利用者を後方に移動させて階段を上ります。
- ユーザーの後ろに1人、前に1人配置します。前の人は車いすの可動しない部分をつかんでサポートしてください。
- 後ろの介助者が椅子を後方に倒し**2**人で一緒に持ち上げます。一歩ずつ進んでください。
- これには転倒防止装置を解除するか取り外す必要があります。 車椅子を使用する前 に転倒防止装置が再度取り付けられているか、または作動状態になっているか確認 してください。

A DANGER A

DANGER: 上記の内容を守らないと、死亡または重大な怪我を負う可能性があります。

G. 階段を下る場合

- 階段を下りるときは、車いすユーザーは前向きで行ってください。
- 利用者と車椅子の重さを支えられる十分な力と技術を持った介助者が利用者の後方で 介助をおこない、車椅子を後方へ傾け、後輪をゆっくり動かして一歩ずつ階段を下っ てください。
- これには転倒防止装置を解除するか取り外す必要があります。車椅子を使用する前に転倒防止装置が再度取り付けられているか、また作動状態になっていることを確認してください。

A DANGER A

DANGER:上記の内容を守らないと、死亡または重大な怪我を負う可能性があります。

IV. 警告

H. 移乗

移乗にはバランスと安定性が必要です。自分で移乗を試みる前に、セラピストからトレーニングを受けてください。

- 車椅子からまたは車椅子へ移乗する前に、移乗距離を減らすように心がけてください。
- 移乗時には必ずブレーキをかけてください。
- キャスターを前方に回して車椅子のホイールベースを長くし安定感を保ちます。
- フットレストを取り外すか、スイングアウトします。
- 移乗の経験が豊富でない限り、誰かにサポートしてもらいましょう。 自分自身での移乗は危険です。バランスと機敏さが求められます。車椅子のシート面が 適切な位置にならない場合は移乗のコツやポイントがあるため習得の必要があります

A WARNING **A**

WARNING: 上記の内容を守らなければ転倒やコントロールを失い重大な怪我や死亡事故を引き起こす可能性があります。

1. 車椅子と使用環境

- 車いすは金属や布などいろいろな素材でできています。水や湿気にさらされると、車 椅子の金属部分が錆びたり腐食したりして、布地が裂けることがあります。車椅子に 水がかかった場合はすぐにふき取り乾かしてください。
- シャワー、プール、水中では使用しないでください。使用すると、車椅子が錆びたり 腐食したりして、最終的には故障します。
- 砂地で車椅子を使用しないでください。ホイールベアリングや可動部品に砂が入り込むことがあります。最終的には車椅子が破損や故障する原因となる。
- 走行しようとするすべてのスロープ、または縁石がADAガイドライン(米国障害者法の建物及び施設でのアクセスについての基準)に準拠していることを確認しましょう。 勾配が大きすぎるとそれを横切ったり、上り下りしたりすると安定性が失われることがあります。

ADA ガイドライン http://www.ada.gov/

A WARNING A

WARNING: 上記の内容を守らなければ転倒やコントロールを失い重大な怪我や死亡事故を引き起こす可能性があります。

J. 車椅子の改造

Ki Mobilityお客様の車椅子は、厳密な設計管理の下で設計・製造されています。この厳しい 工程を経て商品化されることでさまざまな部品の組み合わせが正しく連携し作動することを 保証しています。品質を保証するために協力して作業を行い、さまざまな基準でテストを実施しています。

部品構成の変更、追加、削除またはその他の方法でこの車椅子を改造しないでください。承認されたオプションや純正部品を組み付ける場合を除き、この車椅子を改造する必要はありません。Ki Mobilityに関連付けられたパーツででフレームをドリルまたはカットするオプションはありません。

Ki Mobilityが提供していないアクセサーや構成パーツをご利用される前に、Ki Mobilityの代理店にお問い合わせください。

A DANGER A

DANGER: これらの内容を守らないと、死亡または重大な怪我を負う可能性があります。

K. 車椅子の安定性

車椅子を適切に安定させるためには、重心と車椅子支持基底面のバランスが利用者の能力に合っていることを確認しなければならない。多くの要因がこれら2つの要素から影響を受けます:

- シート高
- 座奥行
- 背角度

- 後輪のサイズと車軸位置
- キャスターサイズとポジション
- シーティングシステム全般

一般的に最も重要な要素は、後方安定性のための車軸(後輪)のポジションになります。安定性に悪影響を及ぼす可能性のあるその他の行動やセッティングもありますので、それらがどのように使用に影響するかを判断するには、車椅子の販売店やご希望内容と能力に詳しい医師やセラピストに相談する必要があります。

A WARNING A

WARNING: 車軸を前方に動かすと、車椅子が後方に傾く可能性が高くなります。少しづつ調整し、ご希望バランスポイントがわかるまでゆっくりと進めてください。上記指示に従わない場合、重大な怪我や死亡事故につながる恐れがあります。

IV. 警告

K. 車椅子の安定性

A WARNING A

WARNING: キャスタ位置を後方に配置するほど、車椅子が前方に傾く可能性が高くなります。可能であればキャスターを前方に取り付け、体重を前方へ移動するような動作を行うときはキャスターを回転させて少しでも前方へセットし、ホイールベースを長くしましょう。上記指示に従わない場合、重大な怪我や死亡事故につながる恐れがあります。

A WARNING A

WARNING: 日常的に使用するアクセサリを使用してセットアップは車椅子販売店に依頼し、行ってください。

座り方に変化が生じたり体重の増減があった場合は車椅子販売店など資格のある技術者に車椅子の再調整を依頼してください。再調整した車椅子に慣れるまでは常に転倒防止装置を使用してください。上記指示に従わない場合、重大な怪我や死亡事故につながる恐れがあります。

A WARNING A

WARNING: 日常生活の中で重心の移動(変化)は1日のうちに何度もあり、車椅子の安定性に大きく影響を及ぼします。これらの重心が変化する動きに注意し、転倒のリスクを最小限に抑えるように注意してください。上記指示に従わない場合、重大な怪我や死亡事故につながる恐れがあります。

A WARNING A

WARNING: 車椅子上での衣服の着脱動作は一時的に安定性を低下させる姿勢を発生させます。 転倒防止装置が正しい位置にあることを確認し、キャスターを回転させて前方にポジションさせ、安定性を保ちましょう。 上記指示に従わない場合、重大な怪我や死亡事故につながる恐れがあります。

A WARNING **A**

WARNING: 身体を大きく動かし何かに手を伸ばす動作をする際は十分注意してください。 重心が大きく変化します。転倒防止装置が適切に配置されていることを確認してください。上記指示に従わない場合、重大な怪我や死亡事故につながる恐れがあります。

A WARNING A

WARNING: 勾配を上る時も重心が後方に移動し安定性が低下します。転倒防止装置が正しい位置にあることを確認してください。上記指示に従わない場合、重大な怪我や死亡事故につながる恐れがあります。

K 車椅子の安定性

A WARNING **A**

WARNING: キャスター上げ(ウィリー)で縁石や障害物を乗り越えようとする場合は、転倒防止装置が正しい位置にあり、前かがみになり重心を前側にあることを確認してください。介助者の支援を必要とされる方はキャスター上げを試みないでください。上記指示に従わない場合、重大な怪我や死亡事故につながる恐れがあります。

A WARNING A

WARNING: バックパックやブリーフケースなどのアイテムを車椅子の前や後に置くと、車椅子のバランスと重心が変化します。これらのアイテムは使用するたびに重量が大きく変化するためバランスがとれるポイントは常に変化します。上記指示に従わない場合、重大な怪我や死亡事故につながる恐れがあります。

車椅子に重いものを載せるとバランスに悪影響を及ぼし、転倒して重傷を負ったり死亡する 場合がありますのでご注意ください。

A WARNING A

WARNING: 転倒防止装置が正しい位置にあることを確認してください。車いすの使用方法や様々な変化や変更については、医師やセラピストに相談してください。この指示に従わないと、危険な状態に陥り、守らないと重大な人身事故につながる恐れがあります。

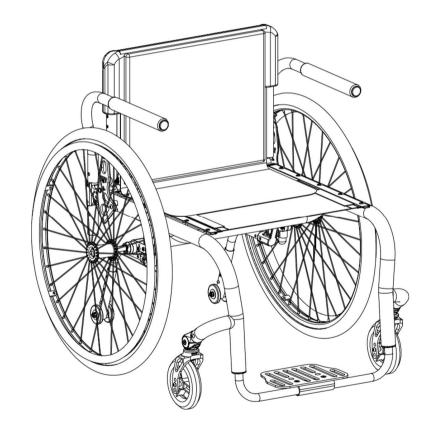
V. 車椅子のセットアップと使用

A. Rogueと付属部品

- 1. 車椅子の点検および整備。33ページのメンテナンスを参照してください。
- 2. 異常を発見した場合は、使用前に必ず整備または修理を行ってください。
- 3. 車椅子販売店に毎年車椅子の保守・安全チェックを依頼し実施してください。

A WARNING **A**

WARNING:この取扱説明書に目を通さず明記内容を守らなかった場合は、車椅子の故障、転倒、誤った使用方法で操縦不能に陥り使用者や他人に重傷を負わせる恐れがあります。



B. 車載について

適切なシートベルトとショルダーベルトを使用して、車椅子から自動車のシートに移るのが 最も安全です。車載オプションが取り付けられていない限り、この車椅子を自動車の座席と して使用しないでください。

車載用フックが取り付けられたRogueは、RESNA WC-4:2012、セクション19:自動車の座席として使用される車椅子、およびISO 7176-19:2008車椅子 の試験に合格しています。 RESNA およびISO規格は、車椅子を自動車の座席として使用する際の構造的完全性を試験するために作られています。これらの規格は、WTORS(車椅子の固定及び乗員拘束システム)との互換性をもつようにも設計されています。

Rogueは、仕様によっては車載用フックを取り付けられない場合があります。 Ki Mobilityはオーダーの内容を管理しており、車載オプションをオーダーされた場合においては車載オプションが取り付けられる仕様でなければRogueを提供しません。 既にお乗りのフォーカス CR に車載オプションを取り付けたい場合、装着の可否をKi Mobilityもしくは販売店へご相談ください。

車載用フックの一部として設計され、テストされた元の機器の座席とバックサポートが、アフターマーケット製品に取り替えられているかもしれません。車椅子販売店は、提供している座席が、オリジナルの製品か純正ではないアフターマーケットの製品かをあなたに伝える必要があります。車載用フックを装備したRogueを自動車の座席として使用する前に、このセクションに記載されている全ての基準に準拠している車椅子フレーム・座席・車椅子固定装置および乗員拘束装置の完全なシステム・適切に装備された自動車を準備する必要があります。

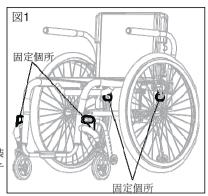
車椅子を自動車の座席として使用する場合、必ず以下の指示に従ってください。

- 車椅子ユーザーは前を向いていなければなりません。
- 車椅子ユーザーと全ての荷物の重さは124kgを超えてはいけません。
- バックパックやポーチ等は取り外して別で車内に固定してください。事故が発生した 場合はこれらの物品が同乗者を負傷または死亡させる可能性があります。
- 車椅子ユーザーは、RESNA WC-4:2012, Section18またはIS010542-1:2012, WTORS -Part1に準拠したシステムを使用しなければなりません。
- 車椅子固定メーカーの説明書およびRESNA WC-4に従い、車載オプション(図1)を使用して、Rogueの4か所の固定ポイント(前2ヶ所、後2ヶ所)に車椅子固定具を取り付けます。: 2012、セクション18、またはISO 10542-1: 2012 パート1。
- RESNA WC-4:2012, Section 18もしくはISO 10542-1:2012, Part 1に準拠していない限り、骨盤ベルト、チェストストラップ、ショルダーハーネスその他ポジショニング用アクセサリーを使用や、乗員拘束装置として信頼しないでください。

V. 車椅子のセットアップと使用

B. 車載について

- 取り付けと調整を行った後、オリジナル装置の背面カバーの上部は、肩から4インチ以内に収まるようにしてください。



- 純正でないアフターマーケット製品は、RESNA WC-4:2012, Section 20 もしくは ISO 16840-4:2009 - Part 4準拠で試験を実施する必要があります
- 車椅子フレームへのシーティングシステムの取付けは、シーティングシステムメーカーの指示およびRESNA WC-4:2012, Section 20 or ISO 16840-4:2009 Part 4に従って実施してください
- 骨盤ベルト、チェストストラップ、ショルダー・ハーネス、その他のポジショニング・ストラップ・システムまたはポジショニング・アクセサリーは、RESNA WC-4:2012, Section20またはISO16840-4:2009-Part4に従ってシーティング・メーカーにより認証されている場合を除き、使用しないでください。
- ヘッドサポート、ラテラルサポートその他のポジショニングアクセサリーは、RESNA WC-4:2012, Section20またはIS016840-4:2009-Part4に従ってシーティングメーカーが そのように認証していない限り、使用したり、乗員拘束具として使用したりしないでください。
- トレイ、酸素ボンベホルダー、酸素ボンベ、IVポール、バックパック、ポーチ、その 他Ki Mobilityが製造していないものなどの市販のアクセサリーは、取り外して別途自 動車に固定する必要があります。事故が発生した場合、これらの物品は危険物となり、 自動車の乗員を負傷または死亡させる可能性があります。
- もし車椅子で何らかの事故に遭った場合は、目視できない破損を負っている可能性がありますので、車載や通常の使用も控えてください。

A DANGER A

DANGER: これらの指示に従わないと、重傷を負ったり死亡する可能性があります。

B. 車載について

NOTE: RESNAまたはISO規格のコピーを入手する場合、以下の規格団体にご連絡ください:

RESNA

1700 North Moore St., Suite 1540

Arlington, VA 22209 Phone: 703-524-6686 Fax: 703-524-6630

Email: technicalstandards@resna.org

ANSI/RESNA Standards:

RESNA WC-4:2012, Section 18:

Wheelchair tie-down and occupant restraint systems for use in motor vehicles.

RESNA WC-4:2012. Section 19:

Wheelchairs used as seats in motor vehicles.

RESNA WC-4:2012. Section 20:

Wheelchair seating systems for use in motor vehicles.

International Organization for Standardization (ISO)

BIBC II

Chemin de Blandonnet 8

CP 401

1214 Vernier, Geneva

Switzerland

Phone: +41 22 749 01 11 Fax: +41 22 733 34 30 Email: central@iso.org

ISO Standards:

ISO 10542-1:2012 Technical systems and aids for disabled or handicapped person --

Wheelchair tie-down and occupant-restraint systems -- Part 1:

Requirements and test methods for all systems.

ISO 16840-4:2009 Wheelchair seating -- Part 4:

Seating systems for use in motor vehicles.

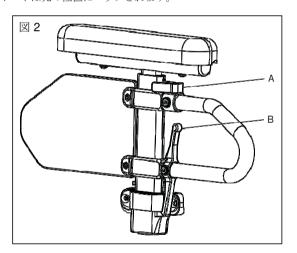
ISO 7176-19:2008 Wheelchairs -- Part 19:

Wheeled mobility devices for use as seats in motor vehicles.

V. 車椅子のセットアップと使用

C. 高さ調整式T型アームサポート

- 1. 取付方法
 - a. 車椅子フレームに取付けられたアームサポートレシーバーにアームポストを差込みます。
 - b. アームサポートは所定の高さでロックされます。ロックレバーが下図のようになっていることを確認してください。(図 2-B)
- 2. 高さ調整方法
 - a. レバーを手前に倒します(図2:A)。
 - b. アームパッドをご希望の高さまで上下にスライドさせます。
 - c. レバーを元の位置に戻します。
 - d. アームパッドが固定されるまで、アームパッドを上から押し、ロックレバーが図のように元のポジションに戻っている事を確認してください(図2:A)
- 3. アームサポートの取外方法
 - a. リリースレバー(図2:B)を握り、アームレストを取り外します。
- 4. アームサポートの交換
 - a. アームサポートをスライドさせてレシーバーに戻します。
 - b. アームサポートは元の位置にロックされます。



A DANGER A

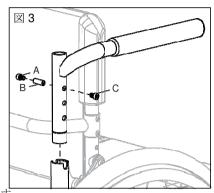
DANGER: 上記の指示に従わないと、アームサポートが誤って車椅子から外れ、転倒または制御不能に陥り、重傷を負う可能性があります。

A DANGER A

DANGER: アームサポートを握って椅子を持ち上げようとしないでください。折れたり外れたりして、制御不能に陥ったり、重傷を負ったり死亡したりする恐れがあります。

D. スイングアウト式サポート

- 1. 取付方法 (図 3)
 - a. アームサポートをフレーム背面のレシ ーバーチューブにスライドさせ、ピン がレシーバーにかみ合うようにします。
- 2. スウィングアウト
 - a. ピンがレシーバーから外れるまでアームレストを持ち上げ、横に回転させます。
- 3. アームレストの取り外し
 - a. レシーバーからまっすぐに引き出します。
- 4. レシーバーの角度調整。
 - a. レシーバーから2本のM5ボルトを取外します。
 - b. レシーバーが3°ずつ回転できるように なります。希望の角度に調整します。
 - c. 位置を決めてボルトを穴に通してナットで締め込みます。



A DANGER A

DANGER: このアームサポートは回旋に対するロックのみ可能です。下向きの力のみに耐えるように設計されています。上へ引き上げると外れますので、車椅子を持ち上げるために用いたり、その他車椅子の取り扱いに使用することはできません。 上記の指示に従わない場合、アームサポートが誤って車椅子から外れ、転倒または制御不能に陥り、重傷または死亡に至る可能性があります。

E. アームサポート使用上の注意

- すべてのKi Mobilityアームサポートは車椅子から外れるように設計されており、この車椅子の重さにも耐えられません。
- アームサポートを用いて車椅子を持ち上げないでください。 アームサポートが外れ、ユーザーが転倒する可能性があります。
- 車椅子を持ち上げる際はメインフレームの取り外しができない箇所を用いてください。

A WARNING **A**

WARNING: これらの指示を守らないと、転倒、転倒、制御不能につながり、ユーザーや他の人に重大な傷害をもたらす可能性があります。

V. 車椅子のセットアップと使用

F. 車軸位置調整

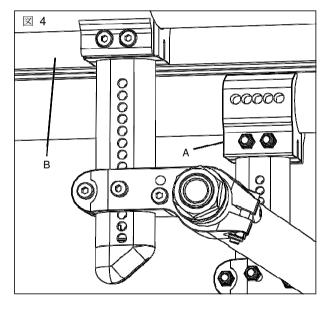
Rogueで最も重要な調整要素は車軸調整です。

シートチューブ(図4:B)上の二つのキャンバーマウントクランプ(図4:A)を前後に動かすことで、車軸(重心)位置を調整することができます。

キャンバーマウントクランプを前方に動かすと、ホイールベースが短くなり、車椅子前方が軽くなりより操作しやすくなります。キャンバーマウントを後方に動かすと車椅子がより安定し、後方に倒れにくくなります。

NOTE: 車軸位置を変更すると、後座高(23ページの「リアシートの高さ調整」を参照してください。リアホイールのトウイン/トウアウト(22ページのトウ角0に設定を参照してください)。およびキャスター角(24ページの「キャスター角度の調整」を参照してください)に影響する場合があります。車軸位置を変更した場合は、必要に応じてこれらの設定をすべて再調整します。

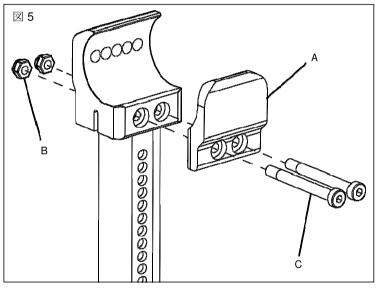
NOTE: 車椅子の車軸調整をするには、ブレーキの位置を再調整する必要があります。ブレーキの調整方法については、31ページの 「ブレーキ」 を参照してください。



F. 車軸位置調整

車軸位置を調整するには(図5):

- a. 両方のホイールを取り外します。
- b. キャンバーマウント(図5:AおよびB)をシートチューブに固定しているネジ(図5:C)とナットを緩めます。
- c. キャンバーマウントをシートチューブに沿って前方または後方にスライドさせて、目的の穴位置に配置します。
- d. 反対側でも同じことを繰り返します。
- e. フレームの両側のマウントがフレームの両側で均等に調整されていることを確認してから、すべてのネジとナットを締めます。
- f. キャンバーマウントクランプが固定されたらホイールを取り付け、車椅子に座り新しい 調整の感触をつかむために試乗を行ってください。



A WARNING A

WARNING: 後輪を前方に動かすほど、車椅子が後ろに倒れる可能性が高くなります。常に少しずつ調整し、転倒防止のために試乗で椅子の安定性を確認してください。変化に適応し、転倒の危険性がないことを確認するまで転倒防止装置の使用をお勧めします。

A DANGER A

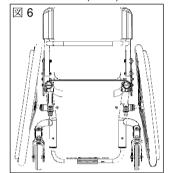
DANGER: これらの注意を怠ると、重大な怪我や死亡事故の原因となります。

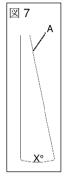
V. 車椅子のセットアップと使用

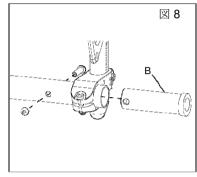
G. キャンバー角

キャンバー角(図7:A)は、角度の増大によりホイール下側の幅が大きくなるため横方向の安定性が向上します。またハンドリムへのアクセス性も向上し、ハンドリムを素早く回すことができます。

キャンバー角は、0°、2°、4°、6°、8°の角度で車椅子販売店から入手可能な交換可能なキャンバーアダプタ(図8:B)によって決定されます。





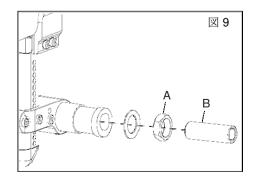


H. ホイール幅調整

ホイールベースの幅を調整すると、ライダーはホイールを腰に近づけたり遠ざけたりすることができます。また、キャンバ調整を補正し、押し当て効率を最大化する適切なホイール間隔を提供します。

ホイール幅の調整 (図9):

- 1. 24mmレンチでナット(図9:A)を緩め、ねじ式車軸スリーブ(図9:B)をご希望の幅になるまで回します。
- 2. ナットを締め直します。
- 3. 反対側も同様



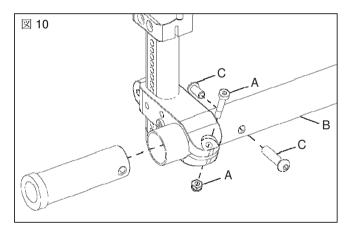
I. トウ角の調整

NOTE: キャンバー角0°に設定された車椅子は、トウイントウアウト状態になることはありません。この調整は2°、4°、6°、8°のキャンバーアダプターを使用する場合にのみ必要となる調整。

トウ角とは、椅子の後輪が地面に対してどれだけ正確に設定されているかを指します。車椅子の走行性能に大きく影響します。トウ角が0に設定されている場合、引っ張りまたは蛇行の抵抗は最小化されます。

トウ角の調整:

- 1. キャンバチューブクランプを固定しているねじ(図10:A)(片側1本)を緩めます。
- 2. キャンバーチューブ(図10:B)を、両側のキャンバースタッツ(図10:C)が地面から同じ 高さになるまで回します。トウ角が0に設定されました。
- 3. ネジ(図10:A)を締める前に、キャンバチューブが車椅子フレームに対して中央の位置になっていることを確認します。左右両側に均等にパイプの長さが存在するか、またはまったく存在しない状態です。
- 4. ねじをバランスよく締めます。1本のねじを5.6Nmに、2本目のねじを5.6Nmに締めます。 最初のねじを8Nmまで締め直します。最後に2番目のねじを8Nmにします。反対側で繰り返します。



V. 車椅子のセットアップと使用

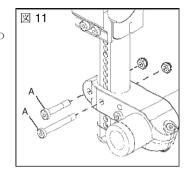
J. 後座高の調整

後座高の調整は、チューブラーコンポーネントシステム(TCS)の調整でセッティングします。

- 1. ホイールを取り外します。
- 4mmの六角レンチと8mmレンチを使用して、上下の 取り付けブラケットを固定している2つのボルト(図 11:A)を取り外します。取り付けブラケットを希望 の高さに調整し、M5の2本のボルトをしっかり締め 付けます。
- 3. 車椅子の両側で同作業を繰り返します。

NOTE: 高さの調整は1/4インチ単位で行えます。

NOTE: 後座高の調整にともないキャスター角の調整も合わせて行ってください。



A WARNING A

WARNING: 後座高を0.5 インチ下げると、後方安定性が0.5°低下します。リアホイールを前に動かすほど、椅子が後ろに倒れる可能性が高くなります。

調整は少しずつ行い、転倒防止のために試乗で車椅子の安定性を確認してください。変化に適応し、転倒の危険性がないことを確認するまで転倒防止装置の使用をお勧めします。

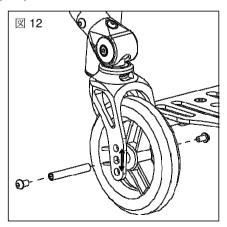
A DANGER A

DANGER: これらの注意を怠ると重大な怪我や死亡事故の原因となります。

K. 前座高の調整

The front seat height can be adjusted in ½" increments by repositioning the caster wheel within the fork (Fig. 12). フロントシートの高さは、フォーク内でキャスターホイールを再配置することにより、1/2インチ単位で調整できます (図12)。

- 1. 2つの4mm六角レンチを使用して、片方 のネジを取り外し、取外したネジの穴か ら車軸を押し出して取外し、目的の高さ 位置まで上下に調整します。
- 2. 2本の6mmネジを元の位置に戻し、 9Nmで締めます。
- 3. キャスター角は、次項Lのキャスタ ー角度調整に定める方法により調整 してください。



L. キャスター角の調整

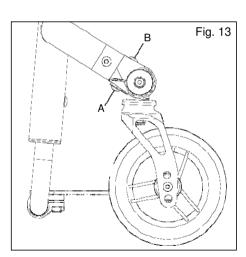
Rogueの最適な性能を維持するために、フロントキャスタハウジング(キャスター角)は常に地面に対して垂直にセッティングされている必要があります。Rogueの出荷時には調整されています。車椅子の様々なセットアップでの調整の多くは、キャスターハウジングの位置にずれが発生します。

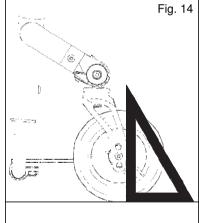
他のすべてのセッティングが完了しましたら、キャスターハウジングの位置を確認し、ハウジングが地面に対して垂直でない場合は位置を再調整する必要があります。

キャスター角調整方法

最適な性能を得るために、キャスターハウジングは常に床面に対して垂直の90°のセッティングしてください。

- 1. 角度を変更するには、M5六角レンチが必要です。
- 2. キャスターハウジングの裏側にあるM8ネジ(図13:A)を緩めます。キャスターハウジングの上部にあるネジを回します(図13:B)。緩めるとキャスターが前に傾きます。締め付けますと後ろに傾きます。
- 3. キャスターの軸が床面に対し垂直になるように調整するまで回します。
- 4. 図14のようにフォークの平らな面に直角を測れる大きな三角定規を置きます。
- 5. Rogueの細かな歯車の調整システムはキャスター角を正確に垂直に調整できます。

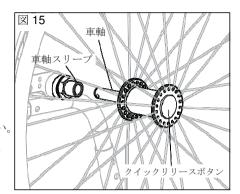




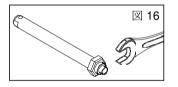
V. 車椅子のセットアップと使用

M. ホイールの取付け及び取外し

- 1. ホイールの取付け (図15)
 - a. 車軸のクイックリリースボタンを押して、ロッキングボールを内側に収納させます。クイックリリースボタンを伸した時の位置と押し込んだ後の位置の違いを確認してください。車軸逆側を確認し、ロックボールがしっかり出てロックされているか確認してください。
 - b. 車軸シャフトが分離している場合は、 車軸をホイールのベアリングハウジ ングに挿入します。
 - c. クイックリリースボタンをもう一度 押し、車軸シャフトを車軸スリーブ に挿入します。



- d. ボタンを放して車軸を車軸スリーブにロックします。 リリースボタンが元の位置に完全に戻らない場合 リリースボタンを離してもロックボールがロック位置に戻らずロックできないため、車 軸の長さを調整する必要があります。
- 2. 車軸シャフトの調整 (図16)
 - a. 車軸を調整するには、19mmレンチで調整ナットを回 す必要があります。 また、車軸が回転しないよう にボールの戻り止めの端をしっかりと固定するには 11mmレンチが必要です。



- b. ホイールと車軸がキャンバープラグにロックできない場合、車軸は調整が必要です。 ナットを反時計回りに約1/4回転させ、車軸をキャンバープラグにロックします。それでもロックされない場合はしっかりとロックされるまで小さなナットの調整を続けます。
- c. ホイールは車椅子にロックされているが、ホイールの遊びが大きすぎる場合 (ホイールハブが車軸で前後に押される可能性があります) ホイールとキャンバーチューブの間に確認できる隙間がなくなるまで、ナットを時計回りに調整してください。

車軸の調整を試みる前にセクションMのホイールの取り付けと取り外しを確認し、理解してください。

- 3. ホイールの取り外し
 - a. ホイールをハブの近くで持ち、車軸の外側のクイックリリースボタンを押します。
 - b. ボタンを押したまま、ホイールと車軸を車軸スリーブから引き出します。

A DANGER A

DANGER: 車椅子を操作する前に車軸クイックリリースボタンが完全に戻っていることと、車椅子の内側にあるロックボールが完全にかみ合ってホイールが外れないことを確認してください。これを怠るとホイールが脱落し、重傷や死亡事故を引き起こす可能性があります。

N. フットサポートの調整

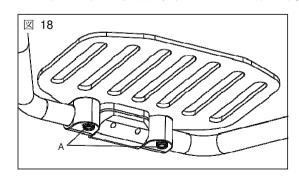
フットレストの高さ調整(図17):

- フレームの両側にある止めネジを確認してください(図17:A)
- 2. M3六角レンチを使用して、フレームの 両側の止めネジを緩めます。 外さないで ください。
- フットレストチューブを上下に調整して、希望の高さにします(図17:B)
- 4. 両側が等しく調整されていることを確認します。
- 5. 各止めネジを4.5Nmで締め直します。



オプションの角度調整可能式フットサポートの角度を調整するには:

- 1. 4mm六角レンチでフットプレートをフットプレートクランプに固定している2本のM6 ネジ (図18:A) を緩めますが、取り外さないでください。
- 2. 緩めると、フットプレートはフットサポートチューブを中心に回転します。
- 3. ご希望の位置に設定し、2つのM6ネジ (図18:A) を9Nmで締め直します オプションのアルミニウムフリップアップフットサポートの位置の変更
- 1. フットプレートから両方のM6ネジを取り外します。 クランプ下側にM6ナイロックナットがあります。ネジを緩めると時、これらが落下しないようにしてください
- 2. ネジを緩めてご希望の角度になるよう前方または後方に調整し、フットプレートを設定 します。 位置が決まったら適切な穴にネジを再度取付けます。
- 3. ナットをクランプの下のスロットに取り付け、ネジをしっかりと締めます。



V. 車椅子のセットアップと使用

P. 転倒防止装置

転倒防止装置は、車椅子の後方への転倒を防ぎます。 適切に調整すると安定性が大幅に向上します。 安定性は凹凸面、傾斜路、斜面、その他路面を走行する事で大きく失う可能性があります。 あなたの安定性はまた、あなたやあなたの車椅子に作用する他の力、例えば誰かがプッシュハンドルや車椅子の他の部分を押し下げたり傾けたりすることによって影響を受ける可能性があります。 これは、経験豊富な車椅子ユーザーでも起こり得ます。 あなたの周りの人々は、あなたの安定性に変化、影響を与えていることを必ずしも理解していません。

Ki Mobilityは転倒防止装置の使用を強くお勧めします!

A WARNING A

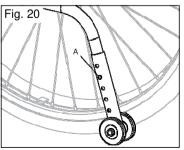
WARNING: 転倒防止装置は常に使用する必要があります。 凹凸面を走行する時も、散らかった部屋にいるときも、予期せぬ事態が発生し重心が大きく変化し、転倒して重傷または死亡に至る可能性があります。

- 1. 転倒防止装置をレシーバーに挿入します(図19)
 - a. 転倒防止装置の後側のピンを押して、両方の 解除ピンを内側に収めます。
 - b. 転倒防止装置をレシーバーに挿入します。
 - c. リリースピンがレシーバーの取り付け穴に入るまで、転倒防止チューブを下に向けます。
 - d. 同じ方法で片側の転倒防止装置を挿入します。
- 2. 転倒防止装置の調整 (図20)

適切なクリアランス3.75~5cmに設定するために、上下セッティングする必要です。

- a. 転倒防止装置のリリースピンを押して、リリースピンを内側に収めます。
- b. 3つの穴の内の1つに上下して合わせます。
- c. ピンを開放します。
- d. 同じ方法で、もう片方の転倒防止装置を調整し、 両方同じ高さになければなりません。

図 19



A DANGER A

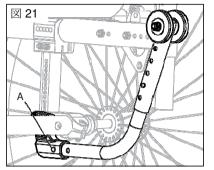
DANGER: これらの注意を怠ると、車椅子の破損、転倒または制御不能につながり、ユーザーや他の人に重傷を負わせる可能性があります。

P. 転倒防止装置

3. 転倒防止チューブを上側に向ける(図21)

介助者に押してもらったり、縁石などの障害物を 乗り越える時は転倒防止装置を上側に向けます。

- a. 後方転倒防止装置のリリースピンを押す。
- b. 転倒防止装置を上側に向けます。
- c. ピンを戻します。
- d. 片方の転倒防止装置も繰り返し行います。
- e. 障害物など乗り越えを終えたら、転倒防 止装置を必ず元の位置へ戻してください。



Q. シート及び背もたれの生地

- 1. 座シートや背シートに摩耗など破損の兆候が見られた際は直ちに交換する必要があります。 怠りますと背座シート及びパイプ等が故障する可能性があります。
- 2. シートスリングの素材は時間とともに弱くなります。 毎週、縁や縫い目でのほつれ、生 地の伸びなどの不具合の発生をチェックする必要があります。
- 3. 車椅子への移乗を繰り返し行うと、スリングの素材が弱くなり、より頻繁にシートを点検し、必要に応じてシートを交換する必要があります。
- 4. 洗濯や過度の湿気は布の難燃性を低下させることになりますので注意してください。
- 5. 背座シートに不具合が見つかったり、または交換を希望される場合は、車椅子販売店に 連絡してください。

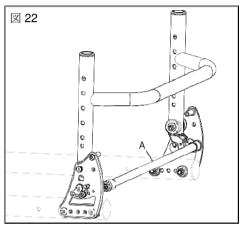
A WARNING **A**

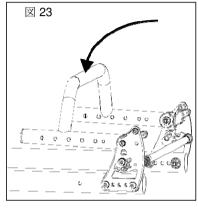
WARNING: これらの指示に従わないと、車椅子の破損、転倒、コントロールが失われるなど、ユーザーや他の人に重傷を負わせる可能性があります。

V. 車椅子のセットアップと使用

R. バックサポート

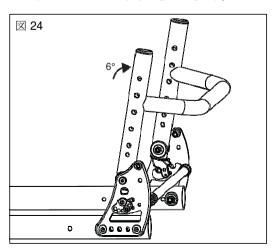
- 1. 折りたたみ式バックパイプ (図22、23)
 - a. バックサポートフレームの後ろにあるリリースバー(図22:A)を持ち上げてロックを解除し、シートフレームに向かって下向きに折りたたみます(図23)。 元の位置に戻すにはリリースバーを外側に引くと背もたれの固定が解除され、元の位置に押すことができます。 背もたれは自動的に固定されます。
 - b. バックサポートフレームをアップライトポジションに戻した際はしっかりと固定されているか確認してください。





2. リラックスポジション(図24)

ローグのバックサポートのリリースバーを外側に引っ張り、車椅子に座ったまま背中に圧力を加えることによりリラックスポジション (6°) に設定できます。



R. バックサポート

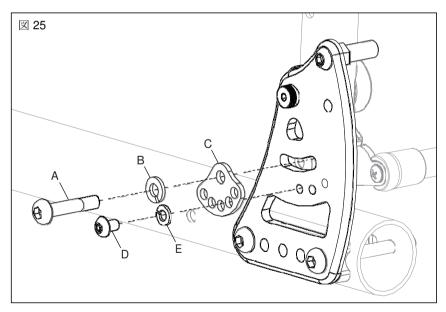
3. バックサポート角度の調整 (図25)

ローグのバックサポート角度を調整するために8つの穴があります(図25:C)。ネジの位置(図25:A)を車椅子の前方に向かって位置決めすると、バックサポート角度が大きくなります。車椅子の後方側へ位置決めすると、バックサポート角度が小さくなります。

バックサポート角度を調整するには:

- 1. 4mm六角レンチを使用して、ネジ(図25:A) とワッシャー(図25:B) を取り外します。
- 2. 3mm六角レンチを使用し、下側のネジ (図25:D) 、ワッシャー (図25:E) および半円 形調整カム (図25:C) を取り外します。
- 3. ご希望の角度になる穴を使用し、全てのワッシャー、ボルトを元のように締め付けます。
- 4. 反対側も同様の作業を行います。両側が同じ角度であることを確認してください。

NOTE: 背シートの高さを下げたり、背もたれの角度を変更すると、後方への安定性が低下する場合があります。常に少しずつ調整し、転倒を防ぐために試乗を行い、車椅子の安定性を確認してください。



A WARNING A

WARNING: これらの指示を守らないと、転倒や制御不能につながり、ユーザーや他の人に重大な傷害をもたらす可能性があります。

V. 車椅子のセットアップと使用

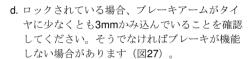
S. ブレーキ

ローグは、いくつかの異なるタイプのブレーキの中から1つが取り付けられて出荷されます。

- 押し掛け
- 引き掛け
- フラットレベル押し掛けブレーキ
- ショートスルーシザーロック

クランプは、すべてのブレーキで同じように機能します。

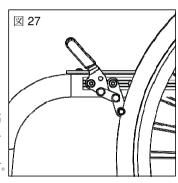
- a. 5mmの六角レンチを使用して、クランプのネジの1つを少し緩めます。(1回転未満)
- b. フレーム上でクランプが調整できるように、**2**つ目のネジを同じ緩めます。
- c. クランプを後輪に向けて調整すると、ブレーキが掛かったときにタイヤが圧縮され、ブレーキが働きます (図26)。





NOTE: 2つのボルトを交互に少しずつ緩めたり締めたりしながら使用します。これにより、ハードウェアに偏った過度な締め付けが防止されるため、締め付け力が上がり、脱落しにくくなります。

ブレーキクランプには11Nmのトルク設定が必要です。



ブレーキは、走行中の車椅子を減速または停止させるようには設計されていません。椅子が 完全に停止しているときに後輪が動かないようにするためにのみ使用してください。

- 車椅子が走行しているときに、ブレーキを使用して椅子を減速させたり停止させたり しないでください。これを行いますと制御不能になります。
- 車椅子が動かないように、車椅子からまたは車椅子へ移乗するときは常に両側のブレーキを設定してください。
- タイヤの空気圧が低いと、ブレーキ力が弱まりタイヤがスリップし、予期せず車椅子 が動く場合があります。
- ブレーキをかけている時は、ブレーキアームがタイヤに少なくとも3mmかみこんでいることを確認してください。そうでなければブレーキが機能しない場合があります。

A DANGER A

DANGER: これらの指示を遵守しない場合、転倒や制御不能に陥り、ユーザーや他の人に重大な傷害をもたらす可能性があります。

T. クッションの使用

a. ローグをご利用の際は適切なクッションをご利用ください。

A DANGER A

DANGER: 適切な車椅子用クッションをご使用せず車いすを長時間ご利用されますと、 褥瘡が発生して深刻な死に至る場合があります。

- b. 標準のスリングシートには、ベルクロが標準でついています。 クッションが滑り出さないように、ベルクロが付属されているクッションをご利用ください。 車いすをご利用の際は、クッションがしっかりと車いすに固定されていることを確認してください。
- c. 標準のシートスリングが車いすに付属していない場合があります。アフターマーケットで製品が提供されているか車いす販売店に確認してください。 アフターマーケットの製品をご利用の際はそのメーカーが提供する使用手順に従ってください。

A WARNING A

WARNING: クッションが適切に固定されていないと使用中または移乗時にクッションが動き、転倒または制御不能な状況を引き起こし、重傷または死亡につながる可能性があります。

VI. メンテナンス

A. 車椅子の点検

定期的なメンテナンスは、車いすの性能を向上させ、車いすの寿命を延ばします。 車いすの修理および部品の交換は、資格のある技術者またはKi Mobility販売店にご依頼ください。

- 1. 基本的なチェック:
 - a. 少なくとも月に1回は車いすをクリーニングしてください。 汚れた環境で操作する場合は、より頻繁に車いすをクリーニングする必要があります。
 - b. すべてのネジ類がしっかり締まっていることを確認してください。 特に締め付けトルクについて明記がない場合は、4.5Nmまで締め込む必要があります。
 - c. タイヤとキャスターを確認してください:
 - タイヤのトレッド(溝)をチェックしてください。タイヤに平らな部分、ひび割れが見られる場合、またはトレッドが摩耗している場合は、タイヤを交換してください。
 - エアータイヤを使用している場合は、空気圧を確認し、タイヤ側面に記載されている空気圧に設定してください。

A DANGER A

DANGER: 摩耗したタイヤは交換してください。 タイヤ側面に表示されている空気圧を維持できなかった場合、ブレーキは正しく作動しません。 これにより、転倒または制御不能に陥り、重傷または死亡に至る可能性があります。

- d. スポークが緩んでいないかホイールを確認してください。
- e. ブレーキを確認してください。 タイヤが摩耗すると、ブレーキを調整する必要があります。 **S**のブレーキの項目を参照してください。
- f. スリングシートや背もたれにたるみがないか確認してください。 スリングシート及 び背もたれは、時間の経過とともに伸びるので、締め直せるように設計されています。 セクションQを参照してください。

VI. メンテナンス

A. 車椅子の点検

- 1. 毎週:
 - a. ブレーキをチェックして、正しく調整されていることを確認します。
 - b. 車軸スリーブをチェックして、車軸ナットがしっかり締まって不具合がないいか確認してください。
 - c. スポークの破損、曲がり、緩みがないか確認してください。
 - d. キャスターが支障なく回転することを確認してください。
 - e. タイヤとキャスターに摩耗箇所がないか点検してください。
 - f. エアータイヤに適切に空気が入っているか確認してください。
 - q. プッシュハンドルが回転したり抜けたりしないことを確認してください。

2. 毎月:

- a. 後輪の車軸を点検し、必要に応じて締め増しをしてください。
- b. キャスターハウジングのベアリング部に髪の毛が付着していないか確認し、必要に応じて取り除いてください。
- c. ブレーキを検査して、組付けがしっかりされていることを確認してください。 ブレーキがタイヤに正しくかみ合っていることを確認してください。
- d. すべてのネジ類がしっかりと固定されていることを確認してください。
- e.変形、欠陥、亀裂、くぼみ、または曲がりがないかフレームを検査してください。 これらは車いすの故障につながるフレームの疲労等の兆候である可能性があります。 車いすの使用をただちに中止し、Ki Mobility販売店に連絡してください。

3. 毎年:

a. 資格のある技術者による車いすの点検と調整を依頼し、必ず実施してください。

A WARNING A

WARNING: 調整後、この車椅子を使用する前に、すべてのネジ類がしっかりと固定されていることを確認してください。怠りますと、けがや車いすに損傷が発生する可能性があります。

A CAUTION A

CAUTION: フレームのチューブが損傷する可能性があるためネジ類を締め過ぎないでください。

A DANGER A

DANGER: これらの指示を順守いただけなければ、転倒または制御不能になり、ユーザーや他の人に重傷または死亡を引き起こす可能性があります。

VI. メンテナンス

B. クリーニング

- 1. 車軸および車輪:
 - a. 湿った布で毎週、車軸と車輪の周りをクリーニングしてください。
 - b. 髪や糸くずがキャスターハウジングに絡みつきます。 絡まった髪の毛を取り除く ために、キャスターハウジングを6か月ごとに分解クリーニングしてください。

NOTE: この車椅子にはWD-40(潤滑油・防錆剤)やその他の浸透性オイルを使用しないでください。これらは密封されたベアリングを破壊します。

NOTE: キャスターやタイヤには化学洗浄剤を使用しないでください。

- 2. 背・座シート類
 - a. 手洗いのみ (洗濯機のご使用は布を傷める可能性があります)。
 - b. 吊り干しのみ。 乾燥機は使用しないでください。 乾燥機の熱で布地が損傷します。

A WARNING A

WARNING: これらの指示を順守いただけなければ、車いすの破損や、転倒、コントロール 不能に陥ったり、ユーザーや他の人に重傷を負わせる可能性があります。

C. 保管

- 1. 車いすを使用されない時は清潔で乾燥した場所に保管してください。これを怠りますと、 車いすが錆びたり腐食したりすることがあります。
- 2. 車いすを数週間以上保管されている場合は、車いすが正しく機能するか確認する必要があります。 必要に応じてセクションAのすべての項目を点検して整備してください。
- 3. 車いすを2か月以上保管されている場合は、使用する前に車いす販売店による点検が 必要です。

A WARNING A

WARNING: これらの指示を順守いただけなければ、車いすの破損や、転倒、コントロール 不能に陥ったり、ユーザーや他の人に重傷を負わせる可能性があります。

VII. 保証

Ki Mobilityは、この車いすのフレームとクイックリリースの車軸を、最初の購入者の生涯にわたって材料および製造上の欠陥がないことを保証します。この車椅子のその他すべてのKi Mobility製の部品およびコンポーネントは、Ki Mobilityより出荷された日から1年間、この保証に基づいて材料および製造上の欠陥が発見された場合、ユーキ・トレーディングの選択によりその部品を修理するか交換するかを決定し、無償にてこれを実施します。

フレームの想定寿命は5年です

保証対象外

- 1. 下記については保証されません:
 - a. 消耗品類:シート類、タイヤ、肘掛けパッド、チューブ、アームサポートやプッシュハンドルのグリップなど
 - b. 放置(メンテナンスの不実施)、事故、誤用、または不適切な設置または修理に起因する 損傷。
 - c. 耐荷重制限を超えた使用での損傷
- 2. 車いすのシリアルナンバータグが削除または変更された場合、この保証は無効になります
- 3. 車いすがオリジナルの状態から修正や加工がなされ、その修正・加工が失敗に終わった場合、この保証は無効になります
- 4. この保証は譲渡できません。ユーキ・トレーディングの販売店を通じて、最初に購入されたご利用者にのみ適用されます。

Ki Mobilityの対応

唯一の対応可能な責任範囲は、対象部品の修理または交換です。

製品ご利用者様に対応いただきたいこと

- a. 保証期間内に対象製品の状況や不具合を申し出てください。
- b. 製品に関する不具合の申告や修理依頼は、製品を購入された販売店を通じておこなってください。ここで示した保証以外で、市場におけるあらゆる慣例や暗黙のルールなどによる保証は除外されます。

